

幅広い配属先があります

これまでの経験

厚生労働省に入省してからこれまでの数理職員としての業務を振り返ると、就職活動をしていた当時には想像もなかった幅広い経験をしてきました。現在は社会・援護局ですが、厚生労働省の外での業務も経験させていただきました。

厚生労働省の数理職員として活躍できる場は広いと感じますので、この冊子をご覧になる皆様のご興味に少しでもつながることを期待してこれまでの業務経験をご紹介します。

統計処理・分析

入省後の最初の配属先は大臣官房統計情報部（現政策統括官（統計・情報政策、政策評価担当））で、生命表作成や統計調査の誤差計算などの業務に携わりました。作業した結果が報道されたり報告書の形になったりやりがいを感じられる仕事でした。その後、初の異動は内閣府への出向で、経済財政白書や月例経済報告の分析に携わりました。

それぞれの部署で約2年ずつ勤務する中で、分析手法を勉強したり、データ処理のためにプログラミングを学んだりする機会に恵まれました。比較的研究に近いですが、一方で結果を説明することも求められます。特に経済財政白書は注目度が高い分他省庁からの反響も大きくなりますので、研究とは違ったやりがいもありました。

業務統計・システム

厚生系の部局で数理職員が多く配属されるのは、年金と医療保険ですが、3カ所目・4カ所目の配属先として経験したのは、保険局と日本年金機構でした。それぞれの制度の実績の業務統計に携わることとなり、データ処理をするうえで必要となるシステムの改修もウエイトの

大きな業務でした。

年金や医療保険の業務統計は、制度を把握したうえで統計作成するので各制度の法律に触れることとなりますし、また、制度改正に資する推計をするにも制度の理解が必要です。

一方でデータ処理のシステムは業務に不可欠で、特に年金は過去の年金記録をすべて保有して支払額の計算も複雑でありその重量級のデータを処理するシステムから統計データを作成するために制度の知識もシステムの知識もフォローアップしつつ開発業者とやりとりしていました。

民間出向

前職は2年間民間に出向してもらい、損害保険の業務に携わりました。産官学連携の場で社会貢献を目指したり、ブロックチェーンのような先端技術の情報を積極的に収集したりする姿勢に刺激を受けました。また、公務員と違うという意味では、3年目に出向した内閣府でも周囲のスタッフは役所の雰囲気とは違い、民間からエコノミストが出向で内閣府に大勢来ていました。どちらも業務自体は厚生労働省の制度に直接に関係するものではありませんが、逆にキャリアとしては幅広い経験ができたと思っています。

おわりに

配属先にもよりますが、数理職や分析スタッフが集中して配属されている部署を多く経験してきました。厚生労働省の数理職員を目指そうと考える皆さんは不安に感じることもあるかと思いますが、そうした部署であれば周囲の人に相談がしやすく働きやすい職場だと思います。

社会・援護局

長谷川 功（補佐級）

経歴

保険局、統計情報部（現政策統括官（統計・情報政策、政策評価担当））、他省庁、官民人事交流等を経て現職